

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 埼玉医科大学
理事長 丸木 清

埼玉医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成19年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	73 人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業員の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数	
医 師	308人	141人	332.2人	看護業務補助	103人	診療エックス線技師	0人	
歯 科 医 師	10人	5人	10.5人	理学療法士	20人	臨床検査 衛生検査 その他	臨床検査技師	75人
薬 剤 師	66人	0人	66.0人	作業療法士	9人		衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	7人		そ の 他	0人
助 産 師	22人	0人	22.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人	
看 護 師	675人	25人	694.7人	臨床工学技士	23人	医療社会事業従事者	2人	
准 看 護 師	50人	14人	59.1人	栄 養 士	30人	そ の 他 の 技 術 員	15人	
歯科衛生士	1人	0人	1.0人	歯 科 技 工 士	3人	事 務 職 員	82人	
管理栄養士	19人	0人	19.0人	診療放射線技師	49人	そ の 他 の 職 員	61人	

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 9 歯科、矯正歯科及び小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	601.8人	5.4人	607.2人
1日当たり平均外来患者数	1608.4人	63.9人	1672.3人
1日当たり平均調剤数	外来 1,158剤 入院 655剤	合計	1,813剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数（毎日の24時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

- 10 専任の医療に係る安全管理を行う者及び、専任の院内感染対策を行う者の配置
 11 医療に係る安全管理を行う部門の設置
 12 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保
 13 医療に係る安全管理のための指針の整備
 14 医療に係る安全管理のための委員会の開催
 15 医療に係る安全管理のための職員研修の実施
 16 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策
 17 院内感染対策のための指針の策定
 18 院内感染対策のための委員会の開催
 19 院内感染対策のための職員研修の実施
 20 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施
 21 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置
 22 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施
 23 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施
 24 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施
 25 医療機器の安全使用のための責任者の配置
 26 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施
 27 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施
 28 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施
 → 別紙参照（様式第13-2）

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・無	0人
・膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・無	0人
・凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・無	0人
・胎児心超音波検査	有・無	0人
・インプラント義歯	有・無	0人
・顎顔面補綴	有・無	0人
・顎関節症の補綴学的治療	有・無	0人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	0人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	0人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	0人
・経皮的レーザー椎間板減圧術	有・無	0人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	0人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	0人
・CTガイド下気管支鏡検査	有・無	0人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	0人
・筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・無	0人
・SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	0人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。
 2 先進医療で上の表に挙げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下肝部分切除術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・悪性腫瘍に対する陽子線治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・成長障害のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・神経変性疾患のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・重粒子線治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・ ³¹ P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・神経芽腫のRNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。
 2 先進医療で上の表に挙げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・膝腫瘍に対する腹腔鏡補助下膝切除術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・末梢血幹細胞による血管再生治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。
 2 先進医療で上の表に挙げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・超音波骨折治療法	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・非生体ドナーから採取された同種骨・靱帯組織の凍結保存	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・膀胱水圧拡張術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下直腸固定術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・骨移動術による関節温存型再建	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・肝切除手術における画像支援ナビゲーション	有・ <input type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。
 2 先進医療で上の表に挙げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法（腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・リアルタイムPCRを用いた迅速診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・先天性難聴の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・フェニルケトン尿症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下子宮体がん根治手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・カフェイン併用化学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・筋過緊張に対する muscle afferent block (MAB) 治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。
 2 先進医療で上の表に挙げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・副甲状腺内活性型ビタミンD（アナログ）直接注入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。
 2 先進医療で上の表に揚げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	65人	・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	35人
・多発性硬化症	157人	・ウェゲナー肉芽腫症	7人
・重症筋無力症	190人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	4人
・全身性エリテマトーデス	2,072人	・多系統萎縮症	4人
・スモン	1人	・表皮水疱症 (接合部型及び栄養障害型)	0人
・再生不良性貧血	72人	・膿疱性乾癬	9人
・サルコイドーシス	221人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・筋萎縮性側索硬化症	31人	・原発性胆汁性肝硬変	758人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	676人	・重症急性膵炎	2人
・特発性血小板減少性紫斑病	188人	・特発性大腿骨頭壊死症	9人
・結節性動脈周囲炎	15人	・混合性結合組織病	371人
・潰瘍性大腸炎	409人	・原発性免疫不全症候群	4人
・大動脈炎症候群	44人	・特発性間質性肺炎	9人
・ピュルガー病	3人	・網膜色素変性症	74人
・天疱瘡	13人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	87人	・原発性肺高血圧症	7人
・クローン病	42人	・神経線維腫症	170人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	12人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	56人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	5人
・パーキンソン病関連疾患	1,094人	・特発性慢性肺血栓塞栓症 (肺高血圧型)	15人
・アミロイドーシス	49人	・ライゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	5人
・後縦靭帯骨化症	31人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・ハンチントン病	1人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する 部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と 開催した症例検討会の開催頻度	大学全体として年間6回（2ヶ月に1回） 各科毎として週1回程度（年間約50回）		
剖 検 の 状 況	剖検症例数	31 例	剖 検 率 10.5 %

1 研究費補助等の実績

No. 1

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
HCV感染者の肝炎活動性を規定する宿主 要因：オステオポンチンの発現調節機構	持田 智	消化器内科・ 肝臓内科	千円 1,600	補 文部科学省 科学研究費 委
2型糖尿病患者のQOL、血管合併症及び長期 予後改善のための前向き研究	片山 茂裕	内分泌内科・ 糖尿病内科	千円 700	補 厚生労働省 科学研究費 委
糖尿病網膜症および加齢黄斑変性症の遺伝 子解析：PEDF遺伝子多型を中心として	栗田 卓也	内分泌内科・ 糖尿病内科	千円 1,800	補 文部科学省 科学研究費 委
アディポネクチン受容体を介したアディポ ネクチンシグナルの解明	犬飼 浩一	内分泌内科・ 糖尿病内科	千円 1,200	補 文部科学省 科学研究費 委
特定疾患患者の生活の質 (Quality of life, QOL) の向上に関する研究	小森 哲夫	神経内科・ 脳卒中内科	千円 800	補 厚生労働省 科学研究費 委
樹状細胞を用いた悪性高熱症の新規診断法 の開発	菊地 博達	麻酔科	千円 1,500	補 文部科学省 科学研究費 委
リアノジン受容体を介した樹状細胞応答の 解析	成田 弥生	麻酔科	千円 1,330	補 文部科学省 科学研究費 委
神経膠腫の浸潤能におけるLPA産生酵素 ATXの役割の解明	藤巻 高光	脳神経外科	千円 1,400	補 文部科学省 科学研究費 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

1 研究費補助等の実績

No. 2

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
胎仔小腸分離細胞の再構築過程における腸管壁内神経細胞遊走のメカニズム	米川 浩伸	小児外科	千円 500	補 文部科学省 科学研究費 委
ミトコンドリア呼吸鎖異常症の診断と分子病理に関する研究：小児高乳酸血症の病因解明	大竹 明	小児科	千円 1,500	補 文部科学省 科学研究費 委
小児等の特殊患者に対する医薬品の製剤改良その他有効性及び安全性の確保のあり方に関する研究	小田嶋 安平	小児科	千円 500	補 厚生労働省 科学研究費 委
自己免疫疾患に関する調査研究	三村 俊英	リウマチ 膠原病科	千円 1,100	補 厚生労働省 科学研究費 委
関節リウマチにおける炎症と動脈硬化	浅沼 ゆう	リウマチ 膠原病科	千円 800	補 文部科学省 科学研究費 委
Th17サブセットが炎症性疾患特に膠原病において果たす役割の解析	佐藤 浩二郎	リウマチ 膠原病科	千円 8,400	補 文部科学省 科学研究費 委
ホモ接合指紋法によるCOPD感受性遺伝子の検索	萩原 弘一	呼吸器内科	千円 4,900	補 文部科学省 科学研究費 委
高齢者呼吸器疾患の発症・制御に関する遺伝子・蛋白系の解明と治療応用	萩原 弘一	呼吸器内科	千円 5,600	補 厚生労働省 科学研究費 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
成人気管支喘息患者の重症度等に応じた健康管理支援、保健指導の実践及び評価方法に関する調査研究	永田 真	呼吸器内科	千円 600	補 環境再生保全 機構 ○委
成人喘息の実解を目指した治療薬の減量・中止に関する研究	永田 真	呼吸器内科	千円 1,500	○補 厚生労働省 科学研究費 委
ガイドライン普及のための対策とそれに伴うQOLの向上に関する研究	永田 真	呼吸器内科	千円 700	○補 厚生労働省 科学研究費 委
妊娠子宮脱落膜NK T細胞が認識する糖・リン脂質抗原の同定	鈴木 元晴	産婦人科	千円 1,500	○補 文部科学省 科学研究費 委
前置癒着胎盤の病態解明と予知について	板倉 敦夫	産婦人科	千円 2,600	○補 文部科学省 科学研究費 委
生殖補助医療の医療技術の標準化、安全性の確保と生殖補助医療により生まれた児の長期予後の検証に関する研究	石原 理	産婦人科	千円 1,500	○補 厚生労働省 科学研究費 委
生殖腺・配偶子保存を中心とした悪性腫瘍患者の妊孕性温存	石原 理	産婦人科	千円 1,500	補 国立成育医療 センター研究所 ○委
幻聴の生理学的研究	岩波 明	神経精神科・ 心療内科	千円 2,200	○補 文部科学省 科学研究費 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

1 研究費補助等の実績

No. 4

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
司法精神医療の適正な実施と普及のあり方に関する研究	岩波 明	神経精神科・心療内科	千円 4,000	補 厚生労働省 科学研究費 委
生存率とQOLの向上を目指したがん切除後の形成再建手技の標準化	中塚 貴志	形成外科・美容外科	千円 24,100	補 厚生労働省 科学研究費 委
QOLの向上をめざしたがん治療法の開発研究	中塚 貴志	形成外科・美容外科	千円 3,500	補 厚生労働省 科学研究費 委
脳血管障害患者におけるインスリン抵抗性の発現機序に関する検討	間嶋 満	リハビリテーション科	千円 1,000	補 文部科学省 科学研究費 委
アトピー性皮膚炎の症状の制御および治療法の普及に関する研究	中村 晃一郎	皮膚科	千円 2,700	補 厚生労働省 科学研究費 委
神経皮膚症候群に関する調査研究	倉持 朗	皮膚科	千円 1,000	補 厚生労働省 科学研究費 委
骨・軟骨系におけるNO合成酵素とサーカディアンリズム関連遺伝子の作用解明	安部 貴大	歯科・口腔外科	千円 700	補 文部科学省 科学研究費 委
自律神経制御の観点に立った骨リモデリングにおける生物時計の関わり解明	佐藤 毅	歯科・口腔外科	千円 1,100	補 文部科学省 科学研究費 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脂肪性腫瘍の発生機構に関する分子遺伝学的解析とその病理診断学的応用	廣瀬 隆則	病理学	千円 1,170	補 文部科学省 科学研究費 委

計 1
合計 33

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Leuk Res 31;707-711, 2007	t(8;14)(q24;q32) in two patients with CD10-negative primary thyroid diffuse large B-cell lymphoma.	別所正美	血液内科
Leuk Res 32;173-175, 2008	Successful radiotherapy in a patient with primary rectal mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma without the API2-MALT1 fusion gene: A case report and review of the literature.	別所正美	血液内科
Ann Oncol 18;1208, 2007	Clinicopathologic correlations of stage IE/II E primary thyroid diffuse large B-cell lymphoma	別所正美	血液内科
Int J Hematol 92;1021-1028, 2007	Long-term outcome of patients with acquired primary idiopathic pure red cell aplasia receiving cyclosporine A. A nationwide cohort study in Japan for the PRCA Collaborative Study Group.	別所正美	血液内科
Hematology 86;238-245, 2007	A Novel Gene, ANKRD28 on 3p25, Is Fused With NUP98 on 11p15 in a Cryptic 3-Way Translocation of t(3;5;11)(p25;q35;p15) in an Adult Patient with Myelodysplastic Syndrome/Acute Myelogenous Leukemia	別所正美	血液内科
Cancer Genet Cytogenet 182;144-149, 2008	The GAA5 (growth arrest-specific transcript 5) gene fuses to BCL6 as a result of t(1;3)(q25;127) in a patient with B-cell lymphoma	中村裕一	血液内科
Intervirology 50;181-189, 2007	Full-Length Sequences of Two Hepatitis E virus isolates Representing an Eastern China-Indigenous Subgroup of Genotype 4	小池雅美	消化器内科 ・肝臓内科
Virology 365;285-291, 2007	Influences on hepatitis B virus replication by a naturally occurring mutation in the core gene.	持田智	消化器内科 ・肝臓内科

計 8

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本門脈圧亢進症学会 雑誌 13;99-102, 2007	下横隔静脈の発達した胃静脈瘤に対して Dual Balloon-Occluded Retrograde Transvenous Obliteration (dual B-RTO) を施行した2例	菅原 通子	消化器内科 ・肝臓内科
日本内科学会雑誌 97;43-49, 2008	劇症化：そのメカニズムと治療の実際 ウイルス性慢性肝炎：診断と治療の進歩	名越 澄子	消化器内科 ・肝臓内科
Hepatol Res. 37:701-710, 2007	Double filtration plasmapheresis and interferon combination therapy for chronic hepatitis C patients with genotype 1 and high viral load.	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科
J Clin Endocrinol Metab 92;1791-1795, 2007	Insulin Gene/IDDM2 locus in Japanese Type 1 Diabetes: Contribution of Class I Alleles and Influence of Class I Subdivision in Susceptibility to Type 1 Diabetes.	栗田 卓也	内分泌内科 ・糖尿病内科
J Clin Endocrinol Metab 92;3162-3170, 2007	Cytotoxic T-lymphocyte associated antigen 4 gene polymorphisms and autoimmune thyroid disease: a meta-analysis	栗田 卓也	内分泌内科 ・糖尿病内科
Biochem Biophys Res Commun 361;421-426, 2007	Promoter polymorphisms of the pigment epithelium-derived factor gene are associated with diabetic retinopathy	栗田 卓也	内分泌内科 ・糖尿病内科
Biochem Biophys Res Commun 365;433-438, 2008	SH3 domain of the phosphatidylinositol 3-kinase regulatory subunit is responsible for the formation of a sequestration complex with insulin receptor substrate-1.	池上 裕二	内分泌内科 ・糖尿病内科
PPAR Res 2007; Article ID 36092 (5pages), 2007	Activating effect of benzbromarone, a uricosuric drug, on peroxisome proliferator-activated receptors alpha	井上 郁夫	内分泌内科 ・糖尿病内科
Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 292;G1439-1449, 2007	Disruption of the murine intestinal alkaline phosphatase gene (Akp3) impairs lipid transcytosis and induces visceral fat accumulation and hepatic steatosis	井上 郁夫	内分泌内科 ・糖尿病内科
Diabetes Care 30;1577-1578, 2007	Prevention of Transition From Incipient to Overt Nephropathy With Telmisartan in Patients With Type 2 Diabetes	片山 茂裕	内分泌内科 ・糖尿病内科

計 10

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hypertens Res 30;529-533, 2007	Is Renoprotection by Angiotensin Receptor Blocker Dependent on Blood Pressure? : The Saitama Medical School, Albuminuria Reduction in Diabetics with Valsartan (STAR) Study	片山 茂 裕	内分泌内科 ・糖尿病内科
脳卒中 29;451-456, 2007	慢性透析患者に発症した急性期脳梗塞の臨床的検討	加藤 裕 司	神経内科 ・脳卒中内科
薬局 58;2265-2270, 2007	トリプタン製剤を知る 片頭痛の適切な治療による医療経済効果とトリプタン製剤の役割について教えてください。	加藤 裕 司	神経内科 ・脳卒中内科
Intern Med 46;462-472, 2007	Multi-center control trial of Etizolam plus NSAID combination for tension-type headache.	荒木 信 夫	神経内科 ・脳卒中内科
脳卒中 29;457-462, 2007	左心補助人工心臓装着後に脳梗塞を合併した4症例の検討	伊藤 康 男	神経内科 ・脳卒中内科
臨床神経学 47;601-604, 2007	遺残原始三叉神経動脈閉塞により両側大脳脚梗塞をきたしlocked-in syndromeを呈した1例	加藤 裕 司	神経内科 ・脳卒中内科
自律神経 44;379-382, 2007	顔面部自律神経機能へ及ぼす鍼通電刺激の影響	荒木 信 夫	神経内科 ・脳卒中内科
動脈硬化予防 6;110-111, 2007	脳血管障害患者におけるL型/N型Caチャンネルブロッカー(シルニジピン)の降圧作用に関する検討	荒木 信 夫	神経内科 ・脳卒中内科
Clin Nucl Med 33;34-35, 2008	Effect of nilvadipine on regional cerebral blood flow in a patient with early Alzheimer Disease.	荒木 信 夫	神経内科 ・脳卒中内科
臨床脳波 49;536-541, 2007	筋萎縮性側索硬化症と鑑別を必要とした糖尿病に起因する神経周膜炎の1例	小森 哲 夫	神経内科 ・脳卒中内科

計 10

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
発汗学 14;26-28, 2007	Complex Regional Pain Syndrome Iにおける精神性発汗、軸索反射性発汗の検討	中里良彦	神経内科 ・脳卒中内科
発汗学 15;43-45, 2008	Pancoast腫瘍の発汗誘発サーモグラフィー所見	吉丸公子	神経内科 ・脳卒中内科
東京都医師会雑誌 60;498-502, 2007	めまい、難聴で発症し、急性副腎不全を併発した血管内悪性リンパ腫症の1例	富岳亮	神経内科 ・脳卒中内科
臨床神経学 47;429-433, 2007	持続性部分てんかん、動作性ミオクローヌスが持続した抗グルタミン酸受容体抗体陽性の自己免疫性脳炎	加藤裕司	神経内科 ・脳卒中内科
臨床神経学 47;512-515, 2007	進行性歩行障害、中脳中心灰白質病変、髄液アンギオテンシン転換酵素相対的高値が、ステロイド治療で軽快した、中枢神経系サルコイドーシスうたがい例	伊藤康男	神経内科 ・脳卒中内科
Brain 129;1470-1480, 2007	Central core disease is due to RYR1 mutations in more than 90% of patients.	菊地博達	麻酔科
Anesthesiology 104;1146-1154, 2007	Malignant hyperthermia in Japan: mutation screening of the entire ryanodine receptor type 1 gene coding region by direct sequencing	菊地博達	麻酔科
ペインクリニック 28;690-698, 2007	10W半導体パルスレーザー治療器(メディレーザーソフトパルス10:MLD1006)の疼痛患者への応用	松本延幸	麻酔科
Biochem Biophys Res Commun. 362;510-515, 2007	Identification of functional type 1 ryanodine receptors in human dendritic cells.	成田弥生	麻酔科
埼玉医科大学雑誌 34;T11-T18, 2007	1型リアノジン受容体を介したヒト樹状細胞応答の解析 悪性高熱症素因者診断のための可能性	成田弥生	麻酔科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hum Immunol. 69;149-157, 2008	17 Beta-estradiol (E2) plus tumor necrosis factor-alpha induces a distorted maturation of human monocyte-derived dendritic cells and promotes their capacity to initiate T-helper 2 responses.	成田 弥生	麻酔科
Int Immunol. 20;405-412, 2008	Role of human non-invariant NKT lymphocytes in the maintenance of type 2 T helper environment during pregnancy.	成田 弥生	麻酔科
麻酔 57;230-237, 2008	小児の硬膜外麻酔実施状況：全国大学病院アンケート調査	蔵谷 紀文	麻酔科
Anesthesiology 108;269-275, 2008	Propofol restores brain microvascular function impaired by high glucose via the decrease in oxidative stress	東 俊晴	麻酔科
Transplantation. 84;1174-1182, 2007	Treatment With Riboflavin and Ultraviolet Light Prevents Alloimmunization to Platelet Transfusions and Cardiac Transplants.	浅野 博	消化器一般外科
Surg Today 37;460-467, 2007	Possible Protection of Sinusoidal Endothelial Cells by Endothelin B Receptor during Hepatic Warm Ischemia-Reperfusion.	大野 康治	小児外科
Mol Cell Proteomics 6;738-744, 2007	Absence of increased α 1-microglobulin in IgA nephropathy proteinuria	岡田 浩一	腎臓内科
Adv Perit Dial. 23;150-154, 2007	Residual renal function plays an important role in regulating parathyroid hormone in patients on continuous ambulatory peritoneal dialysis	井上 勉	腎臓内科
日本腎臓学会誌 49;992-998, 2007	蛋白尿による腎1型コラーゲン産生応答を規定するゲノム領域の同定	加藤 信孝	腎臓内科
Adv Perit Dial 23;144-149, 2007	Comparison and survival of patients receiving hemodialysis and peritoneal dialysis in a single center.	菅原 壯一	腎臓内科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Nephrol Dial Transplant 22;1224-1227, 2007	Elevation of plasma D-dimer is closely associated with venous thrombosis produced by double-lumen catheter in pre-dialysis patients.	菅野義彦	腎臓内科
腎と透析 63別冊 ハイパフォーマンスマンメンブレン 07 ;232-235, 2007	ポリスルホン膜ダイアライザーの形状およびヘパリンが凝固系に与える影響	菅原壯一	腎臓内科
腎と透析 63別冊 ハイパフォーマンスマンメンブレン 07 ;240-244, 2007	ビタミンE固定化ポリスルホンダイアライザーにおける凝固線溶系および脂質代謝の検討	菅原壯一	腎臓内科
日本集中治療医学会雑誌 15;57-62, 2008	持続的血液濾過透析に使用する5つの血液濾過器の臨床評価	菅原壯一	腎臓内科
Diabetes Care 6;1653-1662, 2007	Use of Insulin Pump Therapy in the Pediatric Age-Group: Consensus statement from the European Society for Paediatric Endocrinology, the Lawson Wilkins Pediatric Endocrine Society, and the International Society for Pediatric and Adolescent Diabetes, endorsed by the American Diabetes Association and the European Association for the Study of Diabetes.	雨宮伸	小児科
臨床化学 36;310-313, 2007	ADA, EASD, IFCC, IDFによるヘモグロビンA1c測定の国際標準化に関するコンセンサス・ステートメントに対する糖尿病関連指標専門委員会の見解。	雨宮伸	小児科
Proc Natl Acad Sci U S A 38;15040-15044, 2007	Insulin gene mutations as a cause of permanent neonatal diabetes.	雨宮伸	小児科
臨床化学 1;68-74, 2008	HbA1c測定の信頼性確保のための指針 (Ver. 1. 4:2007-11-20)	雨宮伸	小児科
埼玉県医学雑誌 2;444-456, 2007	埼玉県における学校検尿スクリーニング。 follow-up体制の確立を目指して	皆川孝子	小児科

計 9

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
アレルギー免疫 4;482-487, 2007	乳幼児喘息治療におけるコスト。	小田嶋安平	小児科
アレルギー 7;691-698, 2007	テオフィリン投与中の痙攣症例に関する臨床的検討。第II報中毒例から見た投与上の注意点と予後に関する検討。	小田嶋安平	小児科
Mol Cell Biol 12;4228-4237, 2007	Analysis of the assembly profiles for mitochondrial and nuclear encoded subunits into Complex I.	大竹明	小児科
Eur J Pediatr 10;1009-1016, 2007	Improvements of hypertriglyceridemia and hyperlacticemia in Japanese children with glycogen storage disease type Ia by medium-chain triglyceride milk.	大竹明	小児科
小児科臨床 11;2115-2120, 2007	本邦におけるCarnitine palmitoyltransferase I (CPT I) 欠損症の臨床像について。	大竹明	小児科
Clin Genet 5;496-501, 2008	Mutations of carnitine palmitoyltransferase II (CPT II) in Japanese patients with CPT II deficiency.	大竹明	小児科
Mod Rheumatol. 17;364-368, 2007	Effects of low-dosage simvastatin on rheumatoid arthritis through reduction of Th1/Th2 and CD4/CD8 ratios.	横田和浩	リウマチ ・膠原病科
J Rheumatol. 35;193-200, 2008	High Concentration Simvastatin Induces Apoptosis in Fibroblast-Like Synoviocytes from Patients with Rheumatoid Arthritis.	横田和浩	リウマチ ・膠原病科
Proc Natl Acad Sci U S A. 104;11394-11399, 2007	Pathological role of osteoclast costimulation in arthritis-induced bone loss	佐藤浩二郎	リウマチ ・膠原病科
Nat Immunol 9;34-41, 2008	The contribution of transcription factor IRF1 to the interferon-gamma-interleukin 12 signaling axis and TH1 versus TH-17 differentiation of CD4+ T cells.	佐藤浩二郎	リウマチ ・膠原病科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Scand J Rheumatol 36;365-372, 2007	Expression of BAFF and BAFF-R in the synovial tissue of patients with rheumatoid arthritis.	中嶋京一	リウマチ ・膠原病科
Arthritis Rheum 56;3554-3563, 2007	Rheumatoid arthritis fibroblast-like synoviocytes express BQMA and are stimulated by APRIL	中嶋京一	リウマチ ・膠原病科
J Clin Apheresis 22;323-329, 2007	Recruitment of immature neutrophils in peripheral blood following leukocytapheresis therapy for rheumatoid arthritis	中嶋京一	リウマチ ・膠原病科
Atherosclerosis 195;e135-e141, 2007	Serum osteoprotegerin is increased and independently associated with coronary-artery atherosclerosis in patients with rheumatoid arthritis.	浅沼ゆう	リウマチ ・膠原病科
J Med Dent Sci. 54;9-16, 2007	Elemental analysis of inorganic dusts in lung tissues of interstitial pneumonia.	臼井裕	呼吸器内科
Int Arch Allergy Immunol 141 s1;38-43, 2007	Eosinophils do not enhance the trans-basement migration of neutrophils.	小林威仁	呼吸器内科
日本職業・環境アレルギー 学会雑誌 14;46-51, 2007	気管支喘息患者末梢血単核球の thymus-and activation-regulated chemokine産生におよぼすアレルギー免疫療法の効果	永田真	呼吸器内科
Int Arch Allergy Immunol 141 s1;44-49, 2007	Theophylline Attenuates the Neutrophil-Dependent Augmentation of Eosinophil Trans-Basement Membrane Migration.	永田真	呼吸器内科
日本胸部臨床 66;245-250, 2007	成人気管支喘息におけるスギ花粉症の影響—山陰地方と関東地方の比較	永田真	呼吸器内科
日本呼吸器学会雑誌. 45;237-242, 2007	好中球エラスターゼ阻害剤を使用した急性肺損傷および間質性肺炎症例の臨床的検討.	大谷秀雄	呼吸器内科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
アレルギー 56;1408, 2007	ロイコトリエン受容体拮抗薬は気管支喘息の予後 を悪化させるか?	永田 真	呼吸器内科
Am J Respir Crit Care Med 175;263-268, 2007	Mutations in the SLC34A2 gene are associated with pulmonary alveolar microlithiasis.	萩原 弘一	呼吸器内科
Cancer Sci 99;595-600, 2008	Peptide nucleic acid-locked nucleic acid polymerase chain reaction clamp-based detection test for gefitinib-refractory T790M epidermal growth factor receptor mutation.	萩原 弘一	呼吸器内科
Am J Hum Genet 80;1090-1102, 2007	The Homozygosity haplotype allows a genome-wide search for the autosomal segments shared among disease patients	萩原 弘一	呼吸器内科
Circulation J 71;1035-1039, 2007	Are Cardiac Events During Exercise Therapy for Heart Failure Predictable From the Baseline Variables?	大谷 秀雄	呼吸器内科
日本受精着床学会雑誌 24;237-242, 2007	正常月経周期におけるヒト子宮内膜間質細胞での Gadd45の発現とその発現制御機構	梶原 健	産婦人科
日本産科婦人科学会埼 玉地方部会誌 37;9-11, 2007	IUD長期留置者に発症した放線菌症の一例	菊地 真理子	産婦人科
日本産科婦人科学会埼 玉地方部会誌 37;3-8, 2007	性器脱手術の画期的手法“経膈的メッシュ法”	三木 明德	産婦人科
Ultrasound Obstet Gynecol. 30;638, 2007	Evaluation of bladder neck by perineal ultrasound before and after surgical repair of pelvic organ prolapse.	西林 学	産婦人科
日本女性骨盤底医学会 誌 4;72-75, 2007	経会陰超音波による子宮脱手術症例の術前・術後に 関する検討	西林 学	産婦人科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Oncogene 27:9-19, 2008	Mechanism and functional consequences of loss of FOXO1 expression in endometrioid endometrial cancer cells.	石原 理	産婦人科
Mol Endocrinol. 21:2334-2349, 2007	Transcriptional cross-talk between the forkhead transcription factor FOXO1 and the progesterone receptor coordinates cell cycle regulation and differentiation in human endometrial stromal cells.	石原 理	産婦人科
日本産婦人科・新生児血液学会誌 6:27-32, 2007	鎌状赤血球症合併胎盤の病変	大澤 洋之	産婦人科
臨床スポーツ医学 24:995-1000, 2007	月経周期調整によるコンディショニングの実際	難波 聡	産婦人科
Gynecol Obstet Invest 64:228-231, 2007	Genetically identified complete hydatidiform mole coexisting with a live twin fetus: Comparison with conventional diagnosis.	板倉 敦夫	産婦人科
J Obstet Gynecol Res 33:606-611, 2007	Placenta previa increta/percreta in Japan ? a retrospective study of ultrasound findings, management and clinical course.	板倉 敦夫	産婦人科
Pediatr Res 62:93-97, 2007	MRI findings of the right-sided fetal lung can be used to predict postnatal mortality and the requirement for extracorporeal membrane oxygenation in isolated left-sided congenital diaphragmatic hernia.	板倉 敦夫	産婦人科
Life Sci 82:59-67, 2008	Angiotensin II mimics the hypoxic effect on regulating trophoblast proliferation and differentiation in human placental explant cultures.	板倉 敦夫	産婦人科
Pediatr Neurol. 38:104-110, 2008	Brain maturation-related spike localization in Panayiotopoulos syndrome: Magnetoencephalographic study	金澤 治	精神神経科 ・心療内科
Psychiatry Res 155:21-28, 2007	Episodic memory and neuroimaging of hippocampus and fornix in chronic schizophrenia	黒木 規臣	精神神経科 ・心療内科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Arch Gen Psychiatry 64;521-529, 2007	Progressive and interrelated functional and structural evidence of post-onset brain reduction in schizophrenia	黒木規臣	精神神経科 ・心療内科
Clin Exp Pharmacol Physiol. 34;462-466, 2007	5-HT1A receptor agonist properties of antipsychotics determined by [35S]GTPgammaS binding in rat hippocampal membranes	小田垣雄二	精神神経科 ・心療内科
脳と精神の医学 19;51-57, 2008	視空間位置弁別課題遂行中のヒト頭皮上脳波β帯域事象関連脱同期反応における頭頂部の優位性について	井福正紀	精神神経科 ・心療内科
Psychiatry Clin Neurosci 61;112-119, 2007	Reliability and validity of the Japanese version of the World Health Organization-Five Well-Being Index in the context of detecting depression in diabetic patients.	吉田寿美子	精神神経科 ・心療内科
Neurosci Lett 414;213-217, 2007	Methamphetamine alters expression of DNA methyltransferase 1 mRNA in rat brain.	吉田寿美子	精神神経科 ・心療内科
Neurosci Lett 424;116-121, 2007	Altered EphA5 mRNA expression in rat brain with a single methamphetamine treatment.	吉田寿美子	精神神経科 ・心療内科
臨床整形外科 42;249-253, 2007	血清サイトカインからみた脊椎手術の侵襲度	高橋啓介	整形外科
東日本整形災害外科学 会雑誌 19;168-171, 2007	フタ膝半月断裂に対する縫合方法の力学的検討	大坪隆	整形外科
整形外科 58;1639-1642, 2007	前十字靭帯再建術における移植腱の固定強度—軟部組織用 interference screw 固定に対する dilatiion の効果	日向野雅典	整形外科
Hip Joint 33;62-66, 2007	Curved Periacetabular Osteotomy における工夫と術前後X線評価	金潤澤	整形外科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本人工関節学会雑誌 37;168-169, 2007	人工股関節全置換術における自己フィブリン糊の使用経験	野原 広明	整形外科
J Japanese society for spine surgery and related research 17-3;881-884, 2007	Percutaneous vertebroplasty for vertebral pseudoarthrosis with delayed palsy.	齊藤 文則	整形外科
J Invest Dermatol. 127;1537-1540, 2007	Possible Involvement of Exon 31 Alternative Splicing in Phenotype and Severity of Epidermolysis Bullosa Caused by Mutations in PLEC1.	白土 修	整形外科
J Orthop Sci. 12;227-240, 2007	Japanses Orthopaedic Association Cervical Myelopathy Evaluation Questionnaire (JOACMEQ) : Part 1.	高橋 啓介	整形外科
J Orthop Sci. 12;241-248, 2007	Japanese Orthopaedic Association Cervical Myelopathy Evaluation Questionnaire (JOACMEQ) : Part 2. Endorsement of the alternative item.	高橋 啓介	整形外科
J Orthop Sci. 12;321-326, 2007	Japanese Orthopaedic Association Cervical Myelopathy Evaluation Questionnaire: Part 3 Determination of reliability.	高橋 啓介	整形外科
J Orthop Sci. 12;443-450, 2007	JOA Back Pain Evaluation Questionnaire: initial report.	高橋 啓介	整形外科
J Orthop Sci. 12;526-532, 2007	Japanese Orthopaedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire. Part 2. Verification of its reliability	高橋 啓介	整形外科
Spine 32;3052-3059, 2007	An Outcome Measure for Japanese People with Chronic Low Back Pain; An Introduction and Validation Study of Japan Low Back Pain Evaluation Questionnaire (JLEQ)	白土 修	整形外科

計 9

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J. Hand Surg (European Volume) 32E;296-301, 2007	Abductor Pollicis Longus Transfer to Restore Index Abduction in Severe Cases of Cubital Tunnel Syndrome	加藤直樹	整形外科
Indian J Gastroenterol 26;213, 2007	Colonic leiomyoma with huge ulceration.	高橋範夫	形成外科 ・美容外科
日本形成外科学会会誌 27;424-431, 2007	赤唇三角弁を用いた片側唇裂初回手術—Noordhoff 法の経験	時岡一幸	形成外科 ・美容外科
Plast Reconstr Surg 119;1223-1232, 2007	Analysis of salvage treatments following the failure of free flap transfer caused by vascular thrombosis in reconstruction for head and neck cancer.	中塚貴志	形成外科 ・美容外科
Wound Repair Regen 15;572-576, 2007	AlphaV beta3 (alphavbeta3) integrin inhibition reduces leukocyte-endothelium interaction in a pressure-induced reperfusion model.	市岡滋	形成外科 ・美容外科
Ann Plast Surg 60;194-197, 2008	Oxygen consumption of keloids and hypertrophic scars.	市岡滋	形成外科 ・美容外科
Vox Sang 93;49-56, 2007	Elastic plasma protein film blended with platelet releasate accelerates healing of diabetic mouse skin wounds.	市岡滋	形成外科 ・美容外科
日本形成外科学会会誌 27;493-499, 2007	殿部慢性膿皮症に対する開放療法の有用性	南村愛	形成外科 ・美容外科
JOHNS 24;244-248, 2008	鼻性眼合併症	加瀬康弘	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科臨床 100;923-927, 2007	頸部リンパ節結核6例・耳下腺非定形抗酸菌感染症 1例の検討 最近の傾向と変化について	中嶋正人	耳鼻咽喉科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Acta Otolaryngol Suppl. (559);91-94, 2007	Peritonsillar abscess with parapharyngeal and retropharyngeal involvement; incidence and intraoral approach	中嶋正人	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科頭頸部外科 79;409-413, 2007	急激に視力障害をきたした副鼻腔炎の1症例	柴崎修	耳鼻咽喉科
茨城県農村医学会雑誌 20;75-78, 2007	茨城西南医療センター病院における急性喉頭蓋炎 例の臨床統計	柴崎修	耳鼻咽喉科
医学書院 79;911-913, 2007	早期診断で救命しえた破傷風の1症例	柴崎修	耳鼻咽喉科
JOHNS 23;1785-1789, 2007	口腔底炎症	柴崎修	耳鼻咽喉科
J Hum Genet 52;636-641, 2007	Association of the HTRA1 gene variant with age-related macular degeneration in the Japanese population.	森圭介	眼科
Ophthalmology 114;1956-1957, 2007	Classification of macular holes.	森圭介	眼科
Invest Ophthalmol Vis Sci 48;5315-5319, 2007	Coding and noncoding variants in the CFH gene and cigarette smoking influence the risk of age-related macular degeneration.	森圭介	眼科
Invest Ophthalmol Vis Sci 49;399-406, 2008	Periocular triamcinolone enhances intraocular gene expression after delivery by adenovirus	森圭介	眼科
Biochem Biophys Res Commun 366;532-538, 2008	Connexin 43 contributes to differentiation of retinal pigment epithelial cells via cyclic AMP signaling	森圭介	眼科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床眼科 61;1053-1057, 2007	梅毒眼感染症を契機に発見されたHIV感染症患者の1例	袖山丈男	眼科
Exp Eye Res 86;215-218, 2008	Oxygen saturation levels in the juxta-papillary retina in eyes with glaucoma	村山耕一郎	眼科
日本眼科紀要 58;341-345, 2007	網膜内伝導と視神経乳頭成分	島田佳明	眼科
日本眼科紀要 58;346-349, 2007	transpupillary thermotherapy直後の multifocal electroretinogram変化	島田佳明	眼科
医薬の門 47;430-43, 2007	神経線維腫症1の神経原性腫瘍に対する対応—瀰漫性叢状神経線維腫に対する新たな工夫	倉持朗	皮膚科
診断と治療 すべての医師に必要な皮膚科知識 95;1609-1614, 2007	AIDSの皮膚症状	倉持朗	皮膚科
皮膚科の臨床 49;1215-1218, 2007	タキソイド系抗癌剤	倉持朗	皮膚科
皮膚科の臨床 49;1403-1406, 2007	12才男児に生じたPrimary Cutaneous Peripheral T-Cell Lymphomaの1例	安芸実扶子	皮膚科
Derma 134;57-67, 2007	McCune-Albright症候群, 汎発性黒子症候群, Peutz-Jeghers症候群, 神経皮膚黒色症, phakomatosis pigmentokeratolica, Didymosis aplasticosebacea	倉持朗	皮膚科
日本皮膚科学会雑誌 117;2273-2286, 2007	ダーモスコピーによる赤色病変と血管所見の捉え方	倉持朗	皮膚科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eur J Immunol 38;647-657, 2008	CCL27-transgenic mice show enhanced contact hypersensitivity to Th2, but not Th1 stimuli	中村 晃一郎	皮膚科
日本皮膚科学会雑誌 118;191-203, 2008	悪性黒色腫における超音波パワードプラ法の血流信号と腫瘍血管の免疫組織学的所見の関連についての検討	土田 哲也	皮膚科
日本泌尿器科学会雑誌 98;745-751, 2007	PlasmaKinetic (PK) systemを用いたTUR-Pの経験術後1年間の臨床経過	矢内原 仁	泌尿器科
Japanese Journal of Endourology and ESWL 20;260-266, 2007	泌尿器科外来における膀胱鏡の洗浄・消毒・滅菌に必要なコストの検討 標準的工程の提示とともに	矢内原 仁	泌尿器科
腫瘍内科 1;618-622, 2007	乳癌の髄膜転移に対するトラスツズマブカペシタビンの併用療法が奏効した1例	大崎 昭彦	乳腺腫瘍科
Perit Dial Intern 27 Suppl 2 ;S21-S26, 2007	Telemedicine system for patients on continuous ambulatory peritoneal dialysis	中元 秀友	総合診療内科
日本顎関節学会誌 19;33-37, 2008	紹介患者からみる顎関節症の鑑別診断に関する実態調査	安部 貴大	歯科・口腔外科
日本口腔粘膜学会雑誌 13;16-25, 2007	口腔水分計の至適測定方法に関する実験的検討	福島 洋介	歯科・口腔外科
Int J Dent Hyg 6;63-67, 2008	A randomized controlled trial assessing the effectiveness of professional oral care by dental hygienists	佐藤 毅	歯科・口腔外科
Hospital Dentistry & Oral Maxillofacial Surgery 20;167-169, 2007	A study on Preoperative Autologous Blood Donation Volume in Orthognathic Surgery	坂田 康彰	歯科・口腔外科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本口腔診断学会誌 21;49-54, 2007	骨破壊を呈した顎放射線菌症の1例	安部 貴大	歯科・口腔外科
日本有病者歯科医療学会誌 16;43-48, 2007	舌, S字結腸, 肺に生じた同時性3重複癌の1例	田口 茂和	歯科・口腔外科
口腔顎顔面外傷学会誌 6;13-18, 2007	矯正用アンカースクリューを固定源として整復した歯槽骨骨折の一例	中澤 麻有子	歯科・口腔外科
Acta Cytol 51;900-906, 2007	Qualitative and quantitative analysis of cytologic assessment of astrocytoma, oligodendroglioma and oligoastrocytoma.	廣瀬 隆則	病理学
Ultrastructural Pathology 31;233-239, 2007	Ossifying fibromyxoid tumor: Invariable ultrastructural features and diverse immunophenotypic expression.	廣瀬 隆則	病理学

計 5
合計 161

- 注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 片山 茂裕			
管理担当者氏名	医務部長 薬剤部長 利用者苦情相談室長	奥富 篁幸 江草 利昭 斉藤 喜博	総務部長 医療安全対策室長	茂木 明 金澤 實

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌 処方せん、手術記録、看護記録、 検査所見記録、エックス線写真、 紹介状、退院した患者に係る入院 期間中の診療経過の要約及び入院 診療計画書		診療情報管理室 医務部庶務課	入院・外来診療録とも電子カルテで管 理している。 X-Pフィルムは、フィルム保管庫及 びCR化にて一括管理している。
病院の管 理及び運 営に関す る諸記録	従業者数を明らかにする 帳簿	総務部人事課	/
	高度の医療の提供の実績	医務部	
	高度の医療技術の開発及 び評価の実績	医務部	
	高度の医療の研修の実績	医務部	
	閲覧実績	医務部	
	紹介患者に対する医療提 供の実績	医務部	
	入院患者数、外来患者及 び調剤の数を明らかにす る帳簿	医務部 薬剤部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

			保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	確規保則の第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全対策室	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全対策室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全対策室 利用者苦情相談室	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策室	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

		保 管 場 所	分 類 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の況	院内感染のための指針の策定状況	院内感染対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策室
		従事者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	院内感染対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

			保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の況	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	MEサービス部	/
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEサービス部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEサービス部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEサービス部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	医務部長 奥富 篁幸
閲覧担当者氏名	医務部長 奥富 篁幸 総務部長 茂木 明 薬剤部長 江草 利昭
閲覧の求めに応じる場所	医務部、総務部、薬剤部

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延 7 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 7 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	43.2%	算定期間	平成19年4月1日～平成20年3月31日
算 出 根 拠	A : 紹介患者の数	13,125 人	
	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8,661 人	
	C : 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,339 人	
	D : 初診患者の数	44,865 人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延べ数を記入すること。

①専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1) 名・無
②専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1) 名・無
③医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<p>・所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (8) 名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>大学病院医療安全対策室規則に定める以下の業務を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全対策委員会の資料及び議事録の作成ならびに保存、庶務に関する事項 2. 事故発生時の対応状況についての確認 3. 医療安全に係る連絡調整ならびに医療安全推進活動 4. 医療安全対策の企画，立案，実施，評価，記録 5. 医療安全に係る事項についての大学病院各部及び各委員会との調整 6. 医療安全に関連する委員会の議事録，資料の作成ならびに保存 7. 事故等が発生した場合、診療録や看護記録等への記載状況の確認 8. 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認 	
④当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無
⑤医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<p>指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理指針：平成14年11月19日制定 大学病院の医療安全対策に関する基本姿勢ならびに方針を明確にし、職員に周知を図ることにより安全文化の構築を期待するものである。本指針は患者からの相談への対応に関する指針および、事故等発生時の公表指針も含まれ、また患者・家族の開示請求にも応じる。 2. 診療基本マニュアル第9版：平成18年4月1日一刷（平成10年5月6日，初版一刷） 大学病院における診療の基本姿勢を中心に掲載したマニュアルで、机上版のほかマニュアルの要点をまとめたポケット版がある。机上版は、院内各部署に常備されている「埼玉医科大学病院マニュアル集」に収録し、ポケット版は全教職員に貸与し常時携行を要請している。内容は、「診療の基本姿勢」「正しい保険診療」「医療安全の基本」「医療安全対策；総論」「医療安全対策：各論」「問題発生時等への対応」の六章から構成されている。内容は、定期開催（月2回）される診療基本マニュアル編集会議において検討し、必要事項は随時追補している。 3. 埼玉医科大学病院マニュアル集 全職員が周知しておくべき診療サービス等に係る基準，手順等を収録している。大学病院マニュアル集は、定期的に加除整理をおこなっている。マニュアル集の主な収録内容は次の通りである。診療基本マニュアル机上版，消毒薬使用指針，麻薬管理マニュアル，向精神薬管理マニュアル，褥瘡対策マニュアル，感染性廃棄物取扱手順書，医療ガス保守点検指針，指定施設等不在者投票処理要領，輸血の手順， 4. その他のマニュアル 各マニュアルは、所掌する院内委員会等において診療基本マニュアルとの内容の整合性を検証した上で編集され、関係部署へ常備されている。主なマニュアルは以下の通りである。 電子カルテ運用マニュアル - 全5編 - (情報システム室)，放射線科診療安全マニュアル (中央放射線部)，薬剤業務手順書 (薬剤部)，製剤室業務マニュアル (薬剤部)，看護基準・手順 (看護部)，診療記録等の開示実施マニュアル (医療情報提供委員会)，災害対策マニュアル (施設部)，血液浄化マニュアル (血液浄化部)，医療機器安全管理指針 (中央機材室・MEサービス部)，学校法人埼玉医科大学規程集 	

⑥医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回																																												
<p>活動の主な内容：</p> <p>医療安全対策委員会：大学病院における医療安全対策に関する調査・教育等を総括する委員会であり、医療法施行規則に定める「医療に係る安全管理のための委員会」として位置づけられている。本委員会は病院長を委員長とし、規則により設置された下部専門小委員会において「ヒヤリ・ハット事例」、「アクシデント事例」の検討し、再発防止策等の決定を担っている。本委員会で検討された事項は、大学病院診療科科長会議において報告、審議される。</p>																																													
⑦医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 10 回																																												
<p>研修の主な内容：</p> <p>表の通り</p> <table border="1" data-bbox="217 698 1410 1167"> <thead> <tr> <th>研修名称</th> <th>開催期日</th> <th>研修の目的・主な内容</th> <th>参加数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>マニュアル講習会</td> <td>4/3</td> <td>医療安全の基本的な考え方</td> <td>158</td> </tr> <tr> <td>診療倫理</td> <td>6/26</td> <td>当院が目指す安全で安心できる医療について</td> <td>458</td> </tr> <tr> <td>事例学習会</td> <td>7/20</td> <td>病院の安全と 5S 活動</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>事例学習会</td> <td>8/17</td> <td>診療における危険予知</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>事例学習会</td> <td>9/21</td> <td>チーム医療</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td>事例学習会</td> <td>10/19</td> <td>部署内のコミュニケーション</td> <td>161</td> </tr> <tr> <td>事例学習会</td> <td>11/8</td> <td>医療事故について考える</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>事例学習会</td> <td>1/18</td> <td>安全な業務を遂行するための方策</td> <td></td> </tr> <tr> <td>教育講演</td> <td>1/25</td> <td>患者と医療者のパートナーシップ</td> <td>1,375</td> </tr> <tr> <td>事例学習会</td> <td>2/16</td> <td>医療現場におけるリスクを考える</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table>		研修名称	開催期日	研修の目的・主な内容	参加数	マニュアル講習会	4/3	医療安全の基本的な考え方	158	診療倫理	6/26	当院が目指す安全で安心できる医療について	458	事例学習会	7/20	病院の安全と 5S 活動	54	事例学習会	8/17	診療における危険予知	50	事例学習会	9/21	チーム医療	91	事例学習会	10/19	部署内のコミュニケーション	161	事例学習会	11/8	医療事故について考える	45	事例学習会	1/18	安全な業務を遂行するための方策		教育講演	1/25	患者と医療者のパートナーシップ	1,375	事例学習会	2/16	医療現場におけるリスクを考える	27
研修名称	開催期日	研修の目的・主な内容	参加数																																										
マニュアル講習会	4/3	医療安全の基本的な考え方	158																																										
診療倫理	6/26	当院が目指す安全で安心できる医療について	458																																										
事例学習会	7/20	病院の安全と 5S 活動	54																																										
事例学習会	8/17	診療における危険予知	50																																										
事例学習会	9/21	チーム医療	91																																										
事例学習会	10/19	部署内のコミュニケーション	161																																										
事例学習会	11/8	医療事故について考える	45																																										
事例学習会	1/18	安全な業務を遂行するための方策																																											
教育講演	1/25	患者と医療者のパートナーシップ	1,375																																										
事例学習会	2/16	医療現場におけるリスクを考える	27																																										
⑧医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	㊦・無																																												
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 (㊦・無)</p> <p>改善のための方策の主な内容：</p> <p>インシデント事例は、医療安全管理者ならびに医療安全対策委員会の下部専門小委員会である医療安全対策小委員会委員が毎日輪番制で確認し、重要事例を前記小委員会（月2回開催）において検討する。検討された内容は、科長会議，看護師長会議，医療安全対策実務者に伝達され、各部署へフィードバックならびに厚生労働大臣の登録を受けた第三者機関へ報告している。</p> <p>アクシデント事例は、医療安全対策室室長ならびに病院長へ報告され、医療安全対策委員会の下部専門小委員会である医療事故対策小委員会、若しくは医療安全対策室部内に設置された医療安全対策調査小委員会により事実関係を調査し、今後の予防策について当該部署より文書による回答を求めるとともに、その内容を病院長ならびに厚生労働大臣の登録を受けた第三者機関等へ報告する。</p> <p>インシデント事例およびアクシデント事例ともに、委員会等における検証の後、各部署の医療安全対策実務者に対して情報提供し、合わせて再発防止策等の周知伝達を図っている。</p>																																													

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①院内感染対策のための指針の策定状況	④有・無
<ul style="list-style-type: none"> 指針の主な内容：基本的な考え方、組織および体制に関する基本的事項、従事者に対する研修に関する基本方針、感染症発生時の報告、感染症発生時の対応と連絡、報告体制、患者等に関する当該指針の閲覧 	
②院内感染対策のための委員会の開催状況	④有・無
<ul style="list-style-type: none"> 開催状況：院内感染防止対策委員会 1回/月 インфекションコントロールチーム委員会1回/月 感染制御リンクナース委員会 1回/月 結核対策小委員会 数回/年 活動の主な内容：分離菌報告と針刺し切創報告 MDRP・VREの現状報告 MRSA検出状況報告 	
③従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	④有・無
<ul style="list-style-type: none"> 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> H19. 4. 12 パイコマイシン耐性腸球菌 (VRE) の基本的な感染対策について H19. 4. 26、H19. 5. 8 VRE検出に伴う現状報告と当院における感染対策の基本 H19. 7. 27 VRE感染対策に係る報告 H19. 9. 18 新生児細菌感染症と感染対策 H19. 10. 1、H19. 10. 3 VREに係る当院の今後の感染対策について H19. 10. 9 インフルエンザ予防対策と手洗教育と針刺し切創対策 H19. 10. 23 VREに係る当院の今後の対策について(追加) H19. 11. 26、H19. 11. 28、H19. 12. 3 感染対策の基本「こんな時どうする？」 	
④感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 病院における発生状況の報告等の整備 (④有・無) 週報報告としホームページに掲載 その他の改善のための方策の主な内容：ICTラウンドの強化(毎日のラウンド実施) 	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有 ・ 無
②従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容：19年度研修 看護師研修で医薬品の安全使用について講習（9月1日、9月8日） 薬剤師研修で医薬品の安全使用について講習（9月21日） 医療安全全体会において医薬品安全使用のための業務手順書の講習（7月27日） 	
③医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成（○有 ・ 無 平成19年4月制定、平成20年9月改定） 医薬品安全使用のための業務手順書の見直し改定と医療安全全体会における講習 ・ 業務の主な内容 業務チェックリストによる手順書にもとづく業務の実施をチェック・評価 	
④医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備（○有 ・ 無） 医薬品情報管理室で情報を収集し、毎月医薬品情報誌を作成配布 ・ その他の改善のための方策の主な内容 医療安全巡回で医薬品安全使用状況の点検を実施・指導（2007年11月～1月） 	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	① 有 ・ 無
②従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>①春季新入職医師・看護師対象、診療基本マニュアル機器講習会（人工呼吸器、除細動器）</p> <p>②秋季医療機器安全講習会 （人工呼吸器、輸液ポンプ・シリンジポンプ、心電図モニタ、除細動器等）</p>	
③医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 （① 有 ・ 無）</p> <p>・ 保守点検の主な内容： 人工呼吸器（麻酔器含む）、除細動器、血液浄化装置、補助循環装置、閉鎖機器保育器、ライナック、輸液ポンプ、シリンジポンプ、ネブライザ、手術室医療機器各種点検または修復</p>	
④医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （① 有 ・ 無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 中央機材室ニュース、学内LAN（イントラネット）ホームページに配信、人工呼吸器動作状況確認巡回時に指導</p>	